

詳しい記事が
NIAホームページからご覧になれます
発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
<http://www.nia08.com/>
nia@jcom.zaq.ne.jp

姉妹都市タスカルーサと 青少年交流が行われました

ユニバーシティクラブ

全力で駆け抜けた受入派遣事業

原 リー あんず (国際交流部会長)

この度、習志野市青少年姉妹都市受入派遣事業が無事終了いたしました。

ボランティア、事務局、ホストファミリーの皆さん、多くの関係者の皆さん、本当にお疲れ様でした。それぞれにご尽力、ご協力、心より感謝申し上げます。これまで先輩方が築き上げてこられた絆をもとに、国際交流部会を中心にタスカルーサのリサさんとともに、年齢も経験も異なる私たちは限られた時間の中でできる限り話し合い、受入そして派遣生が帰国するまで、全力疾走で駆け抜けました。

受入に関しては、習志野市内4高校の先生方と、各校でのアクティビティー内容についての話し合いを深め、両国生徒が直接触れ合

る文化交流を中心にするにより、言葉を超えた高校生らしい心で感じる友情が芽生えたように思います。派遣に関しては、事前研修を強化し、習志野市を代表する派遣生としての心構えとその意味の大切さを、彼らの身の丈とその視点から受け入れてもらい、成長と自立を意識して、そのリードとサポートに力を尽くしました。

今回、生徒中心の姉妹都市交流を終えて、私たちが多くのことを彼らから学び、今後の習志野市青少年の国際化において、この姉妹都市交流の将来性をしっかりと認識することができました。今年度は、国際交流部会を中心に、派遣生育成プログラムや姉妹都市交流認知活動を新たに立ち上げ、先輩方から引き継いだバトンを2年後へしっかりとつないでいけるように頑張りたいと思います。

たくさんの素晴らしい思い出

～送別式でのスピーチ～

リサ・キーズ (タスカルーサ国際姉妹都市協会)

習志野の皆様にお別れを言わなければならない時が来ました。人々、美しい町、歴史、文化、教育体験など、たくさんの素晴らしい思い出ができました。私たちが温かく迎え、最高のおもてなしをしてくださったことに対し、市役所、国際交流協会、教育委員会、ホストファミリー、たくさんの友達お一人お一人に心からお礼申し上げます。私たちのようなパートナーシップは人々を一つにし、互いの文化を理解し、より良い世界にしていくために、今まで以上に重要になっています。長年にわたり私たちと良い関係を続けてくださることに対し、タスカルーサから姉妹都市である習志野へ心から感謝の意を表します。

皆様大歓迎ですので、いつでもタスカルーサにいらしてください。



今も思い出しては涙

中北 冴美 (ホストファミリー)

不安…心配…で受入を決意しましたが、友人の協力とGoogleアプリの利用でなんとか会話をつなぎ、充実した7日間を過ごし、一生忘れられない貴重な経験となりました。言葉の壁は厚いと実感しましたが、気持ちの繋がりで家族になれると感じました。別れてから50日程経ちますが、今もその娘を思い出しては涙を流しています…。



タスカルーサ高校生、市内4高校でのアクティビティ

人見 順子（国際交流部会）

■東邦大学附属東邦高校 6月18日

世界史の授業では南北戦争、独立戦争についてのグループトークがありました。難しい内容なので、日本の生徒とのコミュニケーションに悪戦苦闘していたようですが、自分の意見を必死に伝えようとする彼らの姿は、日本の生徒たちにも通じたのではないのでしょうか。

和風の絵入りグリーティングカードを用いた英語の授業では、日本の伝統行事や文化について学びました。カードには自分の名前の音に合わせた漢字が書いてあり、その説明を熱心に聞いていました。剣道にも挑戦。剣道着に袴、さらに防具の胴も着けて本格的です。身支度が整っていくと気持ちも段々としていき、「メーン」と気合の入った掛け声が飛び交いました。

■習志野高校 6月19日

習志野高校では丸一日の交流でした。

朝、吹奏楽部の演奏に歌や踊りなどエンターテイメントの盛大な歓迎を受けてスタートしました。午前最初の授業は畳の広間で英語、続いて3グループに分かれて、英語、化学、体育の授業に参加しました。午後は習志野高校生と一緒にフルーツバスケット。引率者のリサさんも入って大いに盛り上がりました。茶道ではお茶を点てることも体験し、最後は書道でした。自分の手形を色紙に写し取るところから始まり、それで緊張がほぐれたのか、多くの生徒がのびのびとした筆使いをしていました。

様々なアクティビティを多くの習志野高校生と共にして、盛りだくさんの熱い一日となりました。

■実叡高校 6月22日

吹奏楽部の演奏とチアリーディング部の演技による歓迎を受け、その後、茶道、かるた、箏の演奏を体験しました。箏の演奏では、タスカルーサ高校生に音楽が趣味という生徒が多く、実叡高校生の手ほどきを受けるとすぐに弾けるようになりました。

「お好み焼き」の調理実習では、スムーズな流れで上手にできあがりました。日米の生徒が力を合わせてひとつの作業に取り組み、共に作り上げていく。達成感とお腹の満足感からか、その後も笑顔溢れる語らいが続いていました。

■津田沼高校 6月23日

高校に着いてバスを降りたところに、「手作り感」のある心温まる出迎えが待っていました。音楽に合わせて、生徒会や浴衣姿の茶道部、英語同好会、そして教頭先生自らも踊りながらの歓迎が印象的でした。

茶道部では、七夕飾りと長椅子が用意されていて、落ち着いた雰囲気味わうことができました。オーケストラ部では、文部省唱歌「ふるさと」を各楽器ごとに分かれて津田沼高校生のリードで練習、その後、歌も入れて日米高校生の大合奏が実現しました。短時間でみごとな習得ぶりでした。予想外のすばらしい出来事にリサさんも感動していました。

バドミントン部との交流や、理科部による谷津干潟での説明、その他様々な場面で津田沼高校生たちが積極的に英語を使ってコミュニケーションに挑戦する姿がみられました。

■アクティビティを終えて

各高校とも受入活動の内容がよく工夫され、とても魅力的な活動になっていました。日本の高校生が英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿がたいへん好ましく、交流への関心の高さや期待感が伝わってきました。

世界共通の言語といわれる芸術表現やスポーツを通じて、言葉の壁を越えた交流や同じ体験をした喜びや感動に、日米双方の高校生たちの顔が輝いていました。



▲ 剣道着を身に着け「メーン！」（東邦大学附属東邦高校）



▲ 色紙に手形を大胆に（習志野高校）



▲ 日米協力で作るお好み焼き。味はいかが（実叡高校）



▲ 各楽器ごとに練習後「ふるさと」のすばらしい日米合奏（津田沼高校）

図2018との交流記録

派遣高校生、アメリカを体感した忘れられない2週間

野中 泰子（国際交流部会）

青少年海外派遣事業として、7月19日から8月1日の日程で姉妹都市であるアラバマ州タスカルーサ市に高校生16名と引率4名（内NI-Youth1名）が派遣されました。姉妹都市やその近郊について知り、学ぶこと。6月に習志野市を訪問した高校生と再会し交流を深めると共に、彼らの力を借りて地域の方々とも交流をすること。それを通じて異文化を理解し、日本を外から見る体験をし、将来に向けて視野を広げること。それらを目的に派遣生たちは様々な体験をしてきました。

タスカルーサ市の姉妹都市交流協会は、南北戦争時代に建てられ大切に保存されている歴史的建物である「ジェミソンマンション」の中にあります。そこに派遣生は毎朝ホストファミリーに送られて集合しました。

市内については3日間スクールバスに乗って見学をしました。

7月23日、先住民族の暮らしを学ぶマウンドヴィル考古学パークでは、ビデオで歴史を学んだ後に実際にマウンド（丘）に登り、先住民のやり投げや武器作りを体験しました。古くは、以前州都だった時代に人々が集まった酒場や南北戦争で焼け崩れた遺跡から、新しい時代はアラバマ大学の建物、姉妹都市を記念する彫刻作品を見ました。



▲ジェミソンマンション



▲タスカルーサ円形劇場



▲タスカルーサ市議会

7月24日、午前中は夏休み中のセントラル高校を訪問。チアリーダーやバンドの生徒と交流し、体育館で一緒に運動して楽しみました。午後はアメリカンフットボールの強豪校であるアラバマ大学のスタジアムを見学。その後市役所に招かれ、市長と面会后、市議会で派遣生徒代表が挨拶をして温かい拍手を受けました。

7月26日、午前中高校生のための職業訓練校を見学。将来地域の産業を担う人材を育てるシステムに派遣生は感銘を受けていました。午後の連邦裁判所では陪審員の部屋や被告の留置所など、滅多に見られない裏側まで見ることができました。その後、連邦裁判所の壁画を描いた芸術家のアトリエを訪ねました。



▲ U.S.スペース&ロケットセンター

7月25日と7月27日は近郊を見学。バーミングハムでは日米協会のご協力で野球のマイナーリーグの試合を観戦しました。オーロラビジョンの歓迎メッセージに感激しました。ヘレンケラーの生家、NASAのスペース&ロケットセンター、植物園の日本庭園などに行きました。

他にも、アトランタ空港との往復の際にマーチンルーサーキング牧師の生家と博物館で公民権運動を学び、ストーンマウンテンで大きな自然に触れるなど、周囲の地域を見学することでアメリカの広さ、文化の多様さ、歴史を体感しました。

派遣生は帰宅後や週末にホームステイ先で「サザンホスピタリティ（南部のおもてなし）」を受け、ホストファミリー主催のホームパーティーにも参加しました。派遣生にとって忘れられない2週間となったことでしょう。

今回、NI-Youthは派遣前の研修から引率中のサポートまで活躍してくれました。活動を通じて多くを学んだ派遣生やNI-Youthという若い世代が今後活躍できるように引き続きサポートし、また次回の姉妹都市交流がより充実したものとなるように準備を始めたいと思います。

タスカーサからロボコンへ 世界へ飛び出す私の挑戦

玉田 綾さん（東邦大学附属東邦高校）に話を聞きました



アメリカで4月に開かれたロボットコンテストに千葉県の中高校生チームが参加、見事入賞した。そのメンバーに2年前の青少年海外派遣事業でタスカーサを訪問した高校生がいると聞き、受験の夏で忙しい合い間に貴重な経験を聞いた。

「もうホントにワクワクする経験でした」と語る玉田綾さん。東邦大学附属東邦高校3年生だ。玉田さんは、ロボット競技チームの一員として、今年4月にデトロイトで開かれたロボコンの世界大会に参加、チームは新人賞を獲得した。

実は3月のハワイでの地区大会突破を経ての本大会だったが、その難しさと苦労は昨年の活動のスタートからだった。

それまでロボットに興味はなかった。最初はロボット製作もお金もどうしていいかわからない。メンバーや協力者を捜し、高校生、大学の先生、母校、企業の支援を受けた。多くの大人たちやアメリカの主催者との交渉、説得はもちろん初めてで、簡単ではなかった。

デトロイトでの世界大会は4日間。世界各国から400チームぐらいが集まり、本格的でレベルも高い。評価されるのはロボット技術のほか資金集めや理念なども対象で、参加チームのコーナーには各国の人が尋ねて来る。その対応も大事な活動だ。これらの活動を同時に行うのが大会の難しさと面白さだと玉田さんは語る。

その新しい世界に目をひらくきっかけとなったのが、2年前のタスカーサ高校生との交流と現地体験だ。

玉田さんは「タスカーサの高校生が来た時に、彼らの中に入り込めなくて、とても悔しい思いをしました」。でもその時「こんなじゃダメだ。何か話して相手に飛び込まなくては」と気がついた。そして思い切ってやってみたら、「何も問題ありませんでした」。これが始まりだった。

タスカーサに行ったときも、「最初は どうしていいかわからなかったんです」。でもすぐに気をとりなおして積極的に話しかけ、行動するようになった。それからは「もう楽しくて仕方がないくらい」だった。現地の友だちとあちこち遊びに行ったり、ホームステイの家で夜に地下室でパーティをしたり、素晴らしい毎日を過ごした。それまで人と話すのがあまり得意ではなかったという玉田さんだが、「英語で話すのが面白くなりました。挑戦する気持ちが大切だと思いました」と話す。

今回の体験から、「自分たち高校生でもこんなにたくさんの人と何かができるんだ」と知って大きな自信になった。そして自分と同じ高校生には「私もやってみたい」と思っほしいと期待する。そして「外国がとても身近になりました。できれば留学もしたいし、海外で仕事もしたいです。ロボコンの経験を活かして、将来医療ロボットに関わりたと思っています」。



NI-Youthがバーベキューを実施しました 新メンバーも加えて交流を深めました 金井 勇樹（NI-Youth）



NI-Youthは8月11日（土）に幕張海浜公園バーベキューガーデンでBBQを開催しました。

この日は27人の参加者がありました。今年の夏、タスカーサに派遣された高校生や、習志野市でボランティア活動

をしているローターアクトのメンバーも参加しました。

留学生の参加者は2人と少なかったものの、その分しっかり話せてYouthに興味を持ってもらえました。ローターアクトの方たちとはお互いの活動や一緒に行う事業について話しました。これは初めてのことで有意義でした。

派遣の高校生が多数Youthに入ることで、メンバーを増やすことが目標でしたのでよかったですと思います。

日本語教室の親睦会が開かれました 憧れの浴衣を着て盆踊りに参加 清水 雅弘（日本語教室部会）

8月25日（土）、16時半から日本語教室の親睦会が開催され、サンロード6階大会議室に100名を超える参加者が集まりました。

学習者たちは気に入った浴衣を選んで着付けをしてもらいました。外国の方は、着物を着てみたいが着る機会がなく、浴衣を借りて着付けをもらえることを楽しみにしていたようです。18時半ごろから京成津田沼駅前行ロータリーの盆踊り会場で、檜の周りを、学習者とその家族、ボランティアと一緒に踊りました。学習者たちは覚えるのが早いようで、とても上手に踊っていました。

踊りを終えて6階会場に戻って歓談。学習者とボランティアだけでなく、学習者同士も楽しそうにおしゃべりをしていました。



広報 から

● メールマガジンに読者登録を

スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を毎月1回、配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレスniasquare@jcom.zaq.ne.jpまで。

● 原稿をお寄せください

イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局またはniasquare@jcom.zaq.ne.jpへ。

● スクウェア編集部員を募集しています

一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。